『北海道学生卓球連盟の取り組みについて』

北海道学生卓球連盟理事長　藤倉　健太

このたびは北海道学生卓球連盟（以下、北海道学連）の特色ある２つの取り組みをご紹介します。

まずは各大学の卒業生が出場し、現役生と試合をする「中村杯争奪納会試合」です。卒業したての20代から70代まで幅広い年齢層が全国から一同に会して団体戦、シングルス、ダブルスで2日間競い合います。加えて、大会初日の夜には各大学で現役学生との交流会も多く開催されます。コロナ禍で2年間開催できていませんが、北海道学連独自の取り組みとして毎年大きな盛り上がりを見せ、卒業生との絆を深める重要な機会でしたので、今年は再開できるよう、尽力したいと考えています。

２つ目は高校生以下と大学生の交流、強化を目的とした事業を複数開催しています。特に昨年度初めて開催した「小中高大強化試合」はコロナ禍のため少人数ではありましたが、小学生を始めとした全カテゴリの選手が年齢を問わず優勝を争い、また、敗退した選手は交流試合で数多くの経験を積むことができた大会となりました。18歳人口減少が社会問題となり、特に地方は強い危機感を抱えていると思いますが、北海道においてもそのなかで、どれだけ競技人口を増やすことができるか、北海道で卓球を継続してもらえる環境を整えられるかが重要な課題となっています。北海道全体の競技力、地元意識の向上を目標として、柔軟に形態を変えながら引き続き力を入れていかなければならない事業です。

以上になります。第1回目ということで無難な内容になりましたが、もし２回目があれば、卓球から離れて北海道の食や自然、観光についてもご紹介できればと思います。

ご一読いただき、ありがとうございました。